

港町ミュージアム1 学習指導案

- 1 場所：教室
- 2 題材名：港町ミュージアムブックをつくらう
- 3 題材について



本題材は児童が鑑賞の機会を豊富に持てるように継続的な鑑賞活動を行うことで、小学校学習指導要領、第3学年及び第4学年の目標(3)「自分たちの作品や身近にある作品、材料のよさや美しさなどに関心を持ってみるとともに、それらに対する感覚などを高めるようにする」に迫ろうとするものである。この時期の児童は色や形、それらの組み合わせ方、材料、用具などいろいろな造形要素に関心を持つようになる。また、見ることと表すこととが密接に関連している。このような時期に鑑賞の仕方や鑑賞対象の選択を工夫し、鑑賞の視点を明確にした継続した鑑賞活動をすることは鑑賞の能力を育てる効果が大いと考えられる。

指導に当たっては、鑑賞活動が主体的な活動になるように、各自が自分なりの感じ方や見方ができることが大切であることをしっかり意識付けたい。そのために、本時は、自分の手を見てクロッキーをさせ、作品を見せ合うことを通して、同じモチーフでも、一人一人の見る角度や表現方法が違うことのよさを知らせ、友だちの感じ方や見方に共感させたい。また、継続した鑑賞の時間を「港町ミュージアム」学習過程をまとめるファイルを「港町ミュージアムブック」と名付け鑑賞学習を身近な活動として意識付け今後の学習活動につなげていきたい。

- 4 学習目標
 - ・ これからの鑑賞活動の見通しや期待感を持つ。
- 5 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項() (「努力を要する」と判断した児童への指導の手だて)	評価規準 (評価方法)	準備物等
1 自分の手の一部分をみてクロッキーを描く 2 友だちと作品を見せ合いながら気づいたことを話し合う。 3 「見よう！感じよう！『港町ミュージアム』について知る。 「港町ミュージアムブック」をつくらう。 ・ ミュージアムの仕事には、「集める」「見せる」「教える」「研究する」「保管する」があることを知り、今後の学習の見通しをもつ。 4 本時のまとめをする。 ・ 振り返りカードに記入する。	手の平全体を描かなくても良いことを知らせ、描くことに意欲をもたせる。 しっかりした線が描けるように描けるよう濃い鉛筆で描かせる。 手の平の色や形、質感等に目が向くようにさせる。 しっかり対象を見ることで新しい発見があること、感じ方や見方は一人一人違うことに気づかせる。 「見よう！感じよう！」を続けて鑑賞ファイル「港町ミュージアムブック」を作ることに意欲をもたせる。 「港町ミュージアムブック」に使うファイルの色を自由に選ばせることで今後の鑑賞が児童の能動的な姿勢で行なえるように意欲付けする。 自己決定が難しい児童には個別指導する。	・ミュージアムブックを作ることに興味を持つ [造形への関心・意欲・態度] (行動観察)(学習カード)	スケッチ用の紙(10cm四方程度の紙) 参考作品(手をいろいろな角度からスケッチした作品数種類) 実物投影機 学習カード 学習カードを拡大したもの

